

「みんな神様の子ども」

エフェソの信徒への手紙 4：25～5：5

2023年10月8日
野村 友美 師

<子どもというもの>

私たちはみんな、何歳になっても誰かの「子ども」です。親御さんが健在な方も、もう天に召されている方もおられるでしょうし、いろいろな親子関係、また家庭環境があります。

どんな状況で生まれ育ったにしても、私たちはみんな誰かを親として命を与えられて、生まれてきた「子ども」だと言っていいでしょう。

親と子どもはもちろん、それぞれに別の一人の人間どうしですから、親子と言えどもお互いの間にはいろいろな違いがあるのが当たり前です。

その上で、子どもというのは何かしら、親の性質を受け継ぐものでもあります。生まれたばかりの赤ちゃんの顔を見たら、だいたい人はまずその赤ちゃんの顔をじっと見て、赤ちゃんのお父さんやお母さんに似ているところを探しませんか？ああ、眉毛はお父さんに似てるし、鼻の形はお母さん似だね、なんて。顔のパーツだけじゃなくて、体質や性格、好きなものや嫌いなもの、ちょっとしたクセなんかにも、「あ、似てるな」と思うところが何かしら出てくるでしょう。

私が8歳の時に亡くなった私の父は、コーヒーと天体観測と写真を撮るのが好きだったらしく

て、どれも父から直接教わったことはないんですが、気がついたらみごとに受け継いでいました。不思議なものですね。親とは別の存在、別の人格でありつつ、でも親から受け継いだ部分も確かに持っている。それが「子ども」というものなんじゃないでしょうか。

「あなたがたは神に愛されている子どもですから、神に倣う者となりなさい。」

今日の聖書の箇所では、使徒パウロはそう呼びかけています。このエフェソの信徒への手紙の宛先になっているエフェソの教会の人たちと、この手紙を回し読みするはずの他の教会の人たちに。

そして、今日の私たちのように、この手紙を教会と一緒に読んでいるすべての人たちに。

「あなたたちはみんな、神様に愛されている子どもですよ」とパウロは呼びかけているんです。

この世界をお造りになって、すべての生き物に命を与えているのは神様ですから、そういう意味では誰もがみんな神様の作品です。

ですがパウロはもう一歩前に進んで、今この手紙を読んでいるあなたたちは神様の「子ども」だ、と言っています。この呉教会と同じように、パウロの時代の教会にも、いろいろな年齢のいろいろな環境の人たちが集まっていたでしょう。小さな子どももいれば、もう子どもとはちょっと呼べない若い人も、働き盛りの人も、人生のベテランも居て、

一緒にパウロからの手紙を読んだり聞いたりしていたはずで。

パウロはこの手紙を誰に向けて書いているのか、どの年齢の人にとりどんな役割の人にとり、限定してはいません。今それぞれの教会にいて、一緒にこの手紙を読んでいる人たち。あなたたちはみんな、どんな年齢のどんな性格のどんな役割の人、神様から生まれてきて、神様から何かを受け継いでいる「神様の子ども」なんだ。そうパウロは伝えているんです。

<神様の子ども>

ところで、「神様の子ども」と言えばイエス様なんじゃないの？と皆さんは思いませんか？

確かにその通り。イエス様は神様の一人っ子で、神様なのに人間としてお生まれになった方です。

教会は、イエス様のお父さんである神様と、子どもであるイエス様と、神様の霊である聖霊とで一人の神様、ちょっと難しい言い方をすると三位一体の神様として信じています。

だからイエス様は、神様の子どもであると同時に、神様そのものでもあります。そして神様は、大事な子どもで神様ご自身でもあるイエス様の命と引き換えにして、私たちみんなに、誰も仲間はずれじゃないすべての人に神様の子どもとして生きる新しい命をプレゼントしてくださったんです。

私たち人間は誰でも、神様と私たちを引き離す罪を持っている者です。「罪」というのは、ただ悪

いことを言ったりやったり考えたりすることじゃありません。私たちみんなを造って愛しておられる神様のことを無視して、神様を傷つけて悲しませるのが、私たち人間が持っている罪です。

神様から大切に思われているこの世界のすべてを、他の人たちや自分自身だって大切にできなくて、好き勝手に扱ってしまう。神様のこともお互いのことも自分のことも愛しきれない。

そんな風に、神様と私たちをどうしようもなく引き離してしまう私たちの罪の責任を、イエス様が代わりに背負われました。私たちみんなの身代わりになって、痛くて苦しくて孤独な十字架にかかって死なれました。

イエス様が身代わりになってくださったから、私たちすべての人の罪が赦されたんです。私を赦すために、私を罪から救って一緒に生きるために、神様ご自身でもあるイエス様が、私の身代わりになって苦しんで死んでくださった。ものすごいことですよ。そんなものすごいことをするぐらい、神様は私を愛してくださっている。同じように、神様はどこのどんな人も、すべての人を愛しておられる。これが、私たちの救いです。

死なれたイエス様は復活されて、昔も今もこれからも神様と私たちの間を繋いでくださっています。だから、このイエス様を信じる人は誰でも、神様とずっと一緒に生きられる新しい命を受け取っているんです。イエス様の命を受け取って、新しく生まれた「神様の子ども」なんです。

復活されて、父である神様のところに昇られる時に、イエス様はこの地上に残る弟子たちに、聖霊を送ると約束されました。新約聖書の使徒言行録の最初に、その時のことが描かれています。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

(使徒言行録1：8)

イエス様は弟子たちにそう言われました。

今までは目に見えて、話ができて、触ることもできるイエス様が一緒にいたけれど、これからは神様の霊である聖霊が弟子たちと一緒に居てくださる。世界中の人にイエス様のことを伝えて、神様から愛されていることを知らせて、神様の子どもとして生きなさいと招くために、これからは聖霊が弟子たちと一緒に働かれる、とイエス様は約束なさったんです。

聖霊を受け取った弟子たちは、あちこちでイエス様のことを伝えて、やがてイエス様を信じた人たちが集まって、あちこちに教会ができました。イエス様の約束の通り、聖霊は今もイエス様のことを伝える弟子たちの集まり、教会と一緒に働いておられます。

どこのどんな人にも、すべての人にイエス様のことを伝えて神様からの愛を知らせて、神様の子

どもとして生きようと招くために、教会という場所は生まれました。そして、この教会という場所に来ている人はいつでも、誰でも、みんな神様の子どもとして生きようと招かれています。

<みんな神様の子ども>

神様の子どもが生まれる場所に、聖霊が呼び集めた人たち。イエス様のことを伝えられた一人一人に向かって、今もパウロの言葉は呼びかけています。

「あなたがたは神に愛されている子どもですから、神に倣う者となりなさい。」

神様に倣うというのは、自分を神様みたいに偉いとかすごいとかなんでも分かってると思うことではありません。神様に愛されている神様の子どもとして、神様の愛を受け継ぐ人になりなさい、とパウロは勧めているんです。

神様は大事な独り子のイエス様を犠牲にするぐらい、あなたたちを愛しておられるじゃないか。だからあなたたちも、自分とお互いを愛して大切に扱いなさい。そう言っているんです。

でも私たち人間はみんな、この「愛して大切に扱う」がけっこう、いや、かなり不得意です。愛しているつもりで、大事にしているつもりで、でもその相手が思ってることや感じていることを、なかなかちゃんと大切にはできないものです。

自分が思う通りにしようとして、愛しているはずの相手を傷つけたり怒らせたり、悲しませたりしてしまいます。逆に、何か嫌なことを言われたり、されたりしたら、気がすむまでやり返して、自分の怒りや悲しさを相手に分かってほしくなりません。それは、特別に自分勝手な人だけじゃなくて、誰でもが当たり前に持っている性質です。誰だって自分を変えるのはなかなか難しいし、完全に誰かを愛し切れるほど強い人は、きっとこの世界のどこにもいないでしょう。パウロもそのことはしみじみよく分かっていたんでしょね。

今日の箇所に書いてあることは、厳しく聞こえますが、よく読んでみると、わりと現実的なんです。腹を立てるのは仕方がないから、せめて次の日まで持ち越してまで怒らないようにしなさい。人に冷たく当たったり、怒ったりわめいたり、悪口を言いたくなることはあるだろう、あるのは仕方がない。でも、それを実際に言ったりやったりしないように気をつけなさい。言っちゃったりやっちゃったりする前に、湧いてきた悪い気持ちと一緒に、捨ててしまうようにしなさい。そんな風にパウロは勧めているんです。

こんなにわがままで、自分勝手に、意地悪で怒りっぽい私やあなたを、神様はそれでも赦して、愛してくださっているじゃないか。私たちが「神様ごめんなさい！」って反省する前に、イエス様の命を私たちにくださったじゃないか。

この神様の愛を受け継ぐ子どもなんだから、あ

なたたちはできる限りお互いを赦し合って、大事にし合いなさい。そうパウロは私たちに呼びかけています。

そのために、何か特別に立派なことを言ったりしたりする必要はないんです。まずは誰かを馬鹿にしたり、悲しませたり、嫌な気持ちにさせるようなことを、言ったりやったりしないように気をつけていなさい。神様と他の人たちと自分を、愛して大事にする、このことをあなたたちの「一番」にしていなさい。

そう言って、今日のパウロの言葉は私たちに教えているんです。「あなたたちはみんな、神様の愛を受け継ぐ子どもたちだ」と。

聖書の言葉を通して、教会での礼拝を通して、ここにおられる皆さんは今、神様の子どもとして生きるように招かれています。どんな年齢の方も、どんな環境の方も、どんな性格の方も、どんな経験をして、どんな人生を生きておられる方も。

イエス様を救い主と信じるなら、神様に愛されていることを受け入れるなら、私たちはみんな「神様の子ども」です。すべての人が神様の子どもとして生きるようにされる日、天の国が完成する日まで、教会は神様の愛を伝え続けます。

だから神様からの愛を受け継ぐ「子ども」として、私たちはこれからも一歩ずつ、少しずつ、一緒に育ち続けていけますように。

お祈りいたしましょう。